

令和4年度前期「授業改善メモ」のまとめ

初年次セミナーI

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・30分以上1時間未満が多数を占めるところ、やや少ないと思われる。課題としてワークシートを提示するだけでなく、その取り組み方について具体的に示す。
- ・アンケート結果を見る限り、大学設置基準に定められている授業時間外学習の時間に及ばない。本科目では必要な課題は課していると思うが、それを超える自主的な学習を促進することが課題である。
- ・「初年次セミナーIの課題が大変」という声は学生から必ず出るが、現状では十分に授業学習をしていないということを説得的に学生に示す。

2. 受講生が実感する学習成果

- ・十分得られたが60%、概ね得られたが40%であった。WGの教材・授業計画が上手く機能していると思われる。
- ・ミニツツペーパーにより毎回の個々の疑問を確実に解消するよう努めた。また、個々の疑問をクラス全体に共有することで、クラスメート間で良い刺激を受け合う環境づくりを心がけた。
- ・「十分得られた」56%、「おおむね得られた」44%であった。授業中の課題内容に、学生自身の成長を省察する機会を設けているので、学習成果を認識することができたと考える。
- ・対面ならではの、チーム学習や発言等の機会をできる限り確保して、学習している実感を高めてあげる必要があると思いました。

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・グループ活動では、積極的に自分の考えを発表するように促した。
- ・学生が思考を深めるのにつながる教員からの視点を提示したことが、反映されたかもしれない。しかし一方で、問われている内容が難解な面があるかもしれない。
- ・授業時間中は教員の問いかけに対しても真剣に考える様子が見られ、また、グループでの討議についても熱心に行っていた。その成果もプレゼンテーションに反映されていたと考える。

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・話題コンテンツが充実していたので、それなりに学生は知識を得たかもしれないが、自分に何か悟りを開く程度まで感化されたとは言えない学生が大部分だったのではないかと思われる。また、授業配信におけるトラブルも影響しているだろう。

- ・課題内容と成果の関係性を伝える講義や実感しやすい課題の検討が必要と考える。
- ・全クラス共通の教材（初年次セミナーWGによって作成された教材）が適切であったとの指摘はあり、また、担当するクラスで独自に配付した教材についても概ね好評であった。
- ・初年次セミナーⅠの平均よりも高かった。授業内容が自身の将来に直結すること、グループ活動の困難と成果、個々の疑問を都度解消していたことなどが評価された。改善点として、プレゼンの作成期間をもう少し長く確保してほしい、より多くの学部の混合クラスにしてほしい（本クラスは2学部だけだった）、毎回のレポート（ミニツツペーパー）が大変すぎるなどの指摘があった。
- ・初年次教育科目ということで「フィードバック」を重視していた。「先生が、学生に対してとても親身になって下さり、質問などに的確に、丁寧に答えてくださった。」「説明や質問への対応が丁寧に分かりやすい点」このようなコメントに代表されるように、フィードバックは肯定的に受け止められたと言える。初年次セミナーⅡは個別の作業になるため、よりフィードバックに力を入れる。

5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

- ・平常時におけるハイブリッド形式講義の是非、確立された段取りについて、全学的な検討やガイドラインの作成が必要かもしれない。
- ・高尚すぎる課題テーマが見られた。もう少し学生側に寄った課題の設定を求めたい。

大学と地域

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・「1. まったくしなかった」、「2. 30分未満」が合計35%となり、相当高い。毎回レポートが課されているが、真剣に取り組んでない受講生が相当数いることがわかる。授業中に積極的に時間外学習を促したていきたい。

2. 受講生が実感する学習成果

- ・1. 十分得られた（35%） 2. おおむね得られた（54%）であった。受講生の多くは学習成果を実感できたものと思われるものの、不満に思う学生が11%いることから、初期段階で本講義を受講する意義など、丁寧に伝える必要があると思われる。

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・学生が混乱しないように、コースニュースで毎週丁寧に受講の仕方を指示した。興味深いレポートは、掲示板で共有した。

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・講義室に集まってzoomを見るという授業形態に不満を抱いている学生が多くいた。ディ

スカッションが遠隔になったことを残念に思っている学生も多くいた。講義は zoom、ディスカッションは対面という形で授業ができれば良いと思う。

5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

・「大学と地域」の完全対面講義時では、「教室に対する受講生の密さ」が教員から見ても異常な程であった。今後コロナが終息したとしても、一クラス当たりの受講生の人数は考えるべきだと思う。

・講義ごとに、もう少しクラスで自由に使える時間があつたら良いと思う。

体育・健康科学実習

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

・令和 2 年から令和 4 年度にかけて「全くしなかった」は 9.5%で 2.7 ポイント減少、「1 時間以上」は 24.2%で 7.6 ポイント上昇している。学習時間への働きかけが徐々に効果を見せていると考える。

・体育理論の学習時間は、学習内容の実践であることが主であることから、講義内容をさらに生活に活用できる内容としていくことと、生活での実践が学習時間になることの周知を図っていきたい。

2. 受講生が実感する学習成果

・令和 2 年から令和 4 年にかけて「十分得られた・おおむね得られた」の合算では 98.3%で 5.1 ポイント上昇、「十分得られた」のみでは 56.2%で 10.0 ポイント上昇が見られた。部門内での講義 FD や授業改善の効果がみられていると考える。

・令和 2 年から取り組んできた遠隔授業の授業改善の効果がさらに向上していることからこの状況を継続しつつ、さらに学習成果を実感できるよう、更なる工夫を図っていきたい。

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

・令和 2 年から令和 4 年にかけて「積極的に促していた・おおむね促していた」の合算では 98.8%で 7.1 ポイント上昇、「十分得られた」のみでは 75.9%で 24.1 ポイント上昇が見られた。部門内での講義 FD や授業改善の効果がみられていると考える。オンライン・リアムタイム手法講義であることにより、学生の名前を把握し易く、質問のやりとりが明瞭でテンポよく伝わることで、多人数対面授業より大きな改善効果を示したのではないだろうか。また、respon での自由記述の共有やブレイクアウトルームでの学生同士のディスカッションを設定したことで、学生の考察を深めるのに役立っていると考えられる。

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

・令和 2 年から令和 4 年にかけて「とても良かった・おおむね良かった」の合算では 98.4%

で 4.1 ポイント上昇、「十分得られた」のみでは 70.3%で 26.5 ポイント上昇が見られた。部門内での講義 FD や授業改善の効果がみられていると考える。学生のコメントによると「生活に変化を迎える新入生のこの時期に改めて健康やライフスタイルについて考えることは意義がある」「コロナで活動が制限されているから改めて運動や健康の重要性を実感した」など、コロナ禍であるからこそ体育・健康科目の存在意義を体感しているように思われた。

5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

- ・アンケートの回答者が少ない。授業内で頻回に周知する必要を感じた。
- ・遠隔授業において、質問しても声を出せない環境で聞いている学生が多く、遠隔授業の難しさを感じた。
- ・対面授業より教育効果が高いのであれば、あえて遠隔授業を提供していく選択を検討しても良いかもしれない。

情報活用

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・30分～1時間程度の時間外学習をしている学生が最も多く、妥当な結果であると考えられる。その一方、全く時間外学習をしていない学生が 10%以上いる。そういった学生を、テスト等を通して把握して学習を促す。

2. 受講生が実感する学習成果

- ・情報活用は、今後の授業や社会に出てすぐ役に立つ知識ばかりであり、実感が湧くのではないかと感じる。
- ・1年生であり、パソコンを触ったことがない学生が比較的多いことから、丁寧に一つ一つ基礎を学べる環境を作ることで2年次以降も自信を持って使えるようになる。
- ・単位取得できなかった学生もいたため、全員が取得できるように TA によるフォローなどをしたいと思います。

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・実習課題中心の演習により、自主的な考察の機会があると考えられる。
- ・TA がしっかり回ってることが重要な点の一つ。学生からすると TA は話しやすく、また近い視点で相談に乗れるので、1年生も理解が進み、積極的に授業の内容に取り組む足がかりになっていると思われる。
- ・学科全員が揃う対面講義なので、できるだけ学生同士の交流があるように工夫を続けたいと思います。

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

・パソコンにすでに慣れている学生にとっては退屈と言う指摘を受けたが、その指摘をした本人も「パソコンに不慣れな人には有用」という理解を示してくれた。

・レポートの書き方、添え状の書き方、プレゼン資料の作り方、メール連絡、実験のデータ処理など、大学生活ですぐに使えるような内容を中心に講義をしたので、満足度が高かったのかと思います。

・一つ一つは理解できていても、時間が経つとできなくなる内容もあったので、今後は繰り返しを増やして、「分かる」から「できる」になるような工夫をしたいと思います。

5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

・スキルの低い学生には、TAを常時配置するなど、より丁寧な指導を心掛けたい。

・遠隔と対面をそれぞれ学生自身が選択できるのが良かったという意見が多かった。授業形態に間違いはなかったと自負できる。

英語

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

・ I am satisfied that the majority of students are spending a sufficient amount of time on study outside of class time though some have said it is too much for them.

・ I will stress the benefits of self-study but consider tasks more for quality than quantity.

・英語 II クラスの学生は、他学部の学生に比べて宿題の量が多い学科の学生です。そのため、English II では、学生の英語学習へのニーズと学生のストレス回避のバランスを考慮し、宿題の量を慎重に設定する必要があります。LMS システム（Glexa システム）を使って、短時間で定期的に宿題を出すのが一番いい方法だと思います。

・平均値としては目標の 90 分の授業外学習時間に少し足りない。提出した課題レポートと掲示板（授業外演習）に費やした時間を考えると、1、2、3 の回答には疑問を持つ。それ以外の聴解・発話練習という主体的な学習を促したが、個人差が大きいようで、全ての学生のモチベーションを上げるに至らなかったようである。

・掲示板を利用した学生と教員相互の交流（質疑応答）はもっと活発に行われるとよいと考えるが、学生から質問がなかなか出てこない。丁寧に掲示板の私の説明を追えば、もっと学習時間は増えたはずである。学生は自分が割り当てられた課題の演習をし、教員の解答を確認するところで終わったようだ。

・限られた授業時間では限界がある。授業外でも掲示板を有効に使い、皆が積極的に発言・参加する英語学習サークルになるような工夫を考えたい。

・1 時間半から 2 時間ほどだった。妥当だと思う。授業外学習が円滑に進められるように今後も工夫したい。

2. 受講生が実感する学習成果

・ Overall, I am satisfied with the result of this question on the survey. Most students have expressed high learning outcomes from the course. I will continue to try to help the students to understand the goals of the course and provide tasks that show them how they have improved.

・多くの学生が「十分得られた」「おおむね得られた」を選択することを期待したところ、それぞれ 77%、23%の学生が選択しました。しかし、このアンケートに回答しなかった学生がどう感じたかは分からない。ですから、すべての学生が授業内容に興味を持っていると感じられるようにする必要がありますね。

・学習した英単語を、仕事上実際に遭遇しそうな場面に当てはめると、学生のモチベーションが高くなることに気づきました。そこで、YouTube の動画やそのようなソーシャルメディアコンテンツをもっと活用して、実際に起こった動物の健康状況について英語で考えることを促したいと思っています。

・共通テストの得点が 50%程度の基礎学力不足の学生も不合格にならないように、課題の提出に重きを置いて発破をかけ、ごく一部を除いて全員単位を取得することができた。共通テストで 5 割程度しか取れていない学生に、英語ができる実感をもたせるには実践的に学ぶ（実際に使う）ことである。基本的な言い回しを反復練習し、実際に使う経験を積ませたい。

・プレゼン能力やスキルについて学べた、グループで協力して役割分担をする力を身につけられた、SDGs に基づいての調査研究で新たな発見があったなどの反応があった。今後もこのようなコメントが得られるように授業内容を工夫したい。

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

・ I am very satisfied with this result. I think it shows that the focus of the classes is clear to the students and they are being encouraged to actively engage with the material presented. I will continue to provide stimulating and motivating course content that will actively engage students.

・このカテゴリーの回答は、総合的な満足度の回答とリンクしていると思います。学生達は、自分の将来の職業選択に関連した授業であれば、より興味を感じやすいと思います。

・学習した英単語を、仕事上実際に遭遇しそうな場面に当てはめると、学生のモチベーションが高くなることに気づきました。そこで、YouTube の動画やそのようなソーシャルメディアコンテンツをもっと活用して、実際に起こった状況について英語で考えることを促したいと思っています。

・授業中のリスニング練習で、テキスト音声のリピートの回数やスピード、書き取りの時間配分など、学生の反応を見ながらもっと効果的に授業を進める方法を確認したい。

・学生がおとなしく、こちらの問いかけに積極的に発言することがない。学生が発言しやすい雰囲気を作りたい。

- ・自主的な考察をよく促していたという結果だった。Project-based learning で学生の自主的な取り組みが基本となるので妥当だと思う。

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・ I am satisfied with the positive results here as most students expressed high satisfaction with the course content. I will continue to choose appropriate teaching materials and adapt to changing circumstances.

- ・ ESP (English for Special Purposes) の授業は、生徒たちにも喜ばれていると思います。つまり、授業内容が正しく運営されていれば、学生は自分のキャリアのために英語を学ぶことのメリットを感じることができ、その気持ちがこれらの質問に対する回答の良い点数に表れているのです。これからも、実際の仕事の現場で役立つ英語を基本に授業を進めていきたいと思います。

- ・洋楽の聞き取りを取り入れたこと。基本文を完璧に聞き取れるまで、何度も繰り返し聞き、発音の規則を習得したことは、好評であった。背伸びせずに、肩の力を抜いて英語を使ってみることを勧奨している。海外での自分の失敗談などを聞かせて、英語を使ってみることを勇気づけた。

- ・冠詞と前置詞の聞き取り、発話が難しいということは分かってもらえた。コロナが収束すれば、発話の実践練習を多く取り入れたい。

- ・グループ活動でほとんど協力しない人がいて、評価が不公平だという声があった。前年度から採点方法を変え不公平感を軽減したつもりであったが、来年度は再度採点方法を変えて対応したい。また、グループ内の課題の進め方についてももう少し細かくモニタリングを行いたい。

5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

- ・ Some students expressed dissatisfaction with the participation of classmates, which is often a problem in first year courses where motivation and ability varies widely. Perhaps more options for English courses, based on what students hope to achieve in them, could be considered.

- ・生徒たちは教室のテクノロジーを使うのがとても上手で、従来のように紙と教科書を使うよりも、デジタルメディアを使って仕事をする方が快適そうだと気づきました。教室のテクノロジーに関する最新の情報を入手し、教室で新しいアプリケーションなどを試す機会を見つけることができるようにします。

- ・対面授業とはいえ、コロナ感染防止のために授業中の学生同士の発話は控えた。口に出して発音する機会が奪われたことの影響は大きい。

- ・アンケートの回答率が良くないので、実情を掴みにくい。成績評価は課題提出に重きを置いたので、平均点は比較的良かったが、期末試験（基本的な短文の英作文問題）だけを見れ

ば、平均点は40%弱であった。

・コロナ禍が収束すれば、授業中、学生にどんどん発話させ、発音チェックもできる。そうすれば授業外学習ひいては英語学習へのモチベーションを上げられると考える。

・学生の意見を聞くことは大切である。事後よりも学期中に要望を積極的に言って欲しいが、30人以上のクラスでは、学生と教員とが他人行儀な感がある。アンケートの回答率を上げるために、最後の授業または試験で時間を取ってスマホから回答させても良いだろう。

・2回のプロジェクトは学生に負担が大きく、また事前学習とプロジェクトの背景情報の学習と、調査結果を実生活に活かす事後学習にかかる時間が十分でない気がする。そこで、プロジェクトを1回にして、事前学習と事後学習が充分に行えるようシラバスを見直す。

初修外国語

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

・とてもよかったが74%ということで、かなり高いほうだったかと思います。また、受講者の意見では、受講者同士が補い合うような工夫がされていたことや、進度がゆるやかな点が、特に評価されていました。

5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

・語学の授業の場合、やはり対面授業に勝るものはないというのが実感です。対面授業の利点をより引き出せるよう、工夫をしたいと思います。

教養教育科目

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

・学期中に授業の負担感に関するアンケートを実施した。学部・学年により負担感が大きく異なったため、負担感の低い者には発展学習の課題を示した。

・今後も、できるだけ早めに配布資料を公開することで、自習時間を増やしたい。

・参考文献を事前に示すことが重要。

・学生の興味を引く題材を取り上げる。

・他科目と同程度なので、科目間の歩調という意味では、現状維持したい。徐々に時間数を増やすよう難易度を上げるなどで対応していきたい。

2. 受講生が実感する学習成果

・今学期は、respon とミニッツペーパーを用いた双方向性をさらに高めるとともに、グループディスカッションを複数回実施した。

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

・引続き、グループディスカッションと意見の共有を行いたい。

- ・オムニバスによる講義内容であるため、引き続き担当教員に結果を報告し、考えさせる講義をお願いしていく。

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・法学についてはどうしても苦手意識がある学生が一定数おり、しかしながら本科目は教職必修でもあるので、そのような学生でも関心を持って学習できるような教材の改善が求められている。時事的な話題を教材に取り上げると同時に、学生が不得意とするような分野については補足教材などを配布して理解を深めさせたい。

- ・グループディスカッションは、講義内容の関係で5回ほどである。代わりに次回アンケートの公開で他者の意見に触れる機会を設けている。引き続き行っていきたい。

- ・高い評価に甘んじることなく、より授業改善に努める。

- ・授業内容を削減して時間内に終わらせるようにする。

5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

- ・今年度は理系学部の履修学生が多かったためか、レポート作成に際して、段落を作成できない、文章ではなく箇条書きにする等のケースが存在したことから、初年次セミナーの進捗も考えながら、簡単なガイダンスを実施する必要がある。そこで、レポートの書き方の基礎について、丁寧な説明を行う。

- ・障害児教育という分野を様々な学部の学生に引きつけることの難しさを感じる。また、最終レポートは、理工系の学生にとってやや不利になる傾向がある。遠隔授業だからこその講義ができていると思う。また、履修態度は毎回のアンケートで把握しているが、取り組み度合いに学生間の格差がある。全学部に引きつけた内容にしているが、もっと理工系の学生向けの内容を取り入れたい。

- ・講義内に演習・討論など、アクティブラーニングを取り入れているが、さらに取り入れ、学生に対しての興味ある講義を工夫できればと考える。

- ・毎年のものであるが、講義内容が講師間で内容の重複があると指摘される。今回も内容の調整をし、今回、私も聴講しているが、講師の講義内容には必要な情報であり、省くことができないと判断できる。しかし、内容の重複を指摘する学生がいる。

基礎教育入門

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・引き続き、課題を与えて自習時間を確保させると共に、オンデマンドによる講義内容の配信を増やしていくことが良いのではと思う。

- ・予習復習の効果は、時間がすべてではないが、もう少し長く授業時間外学習をする様にさせるならば、予習用の課題を準備する必要がある。今回は主に復習のみを準備している回が多かった。

- ・ほとんどの受講生が、受験で生物選択をした学生なので、授業時間内に物理自体を楽しんで、少しでも物理アレルギーをなくすような授業を考えている。したがって、演習問題などを提出して予習復習を強要することはしていない。

- ・今年度後期は対面授業の可能性が開かれている。対面授業が増える中で、学生への課題を少しずつ増やす予定である。

2. 受講生が実感する学習成果

- ・みじかな題材を取り入れて、興味を持たせるようにする。

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・特に、口頭の説明と立体化学の動画を見せることを組み合わせることで、立体化学と農学の専門領域との関りの例を示しながら、授業を進め、レポートについても具体的な例を挙げて課題を課すこととしたい。

- ・演習問題に取り組むよりも、物理学者の伝記を読むような方法で、物理のことを考えてほしいと思う。そのような意味で、自主的な取り組みを促したい。

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・休講にする場合のルール(代わりの教員が出て、できるだけ授業に穴をあげない)を7人の担当教員団の中で徹底する。

- ・1年生前期向け授業なので、オンデマンド授業などの受講方法をガイダンスで説明するとともに、時間超過がないように担当教員団で事前に徹底する。

- ・試験はノートや資料を持ち込み可としているので、講義の内容をそのまま試験問題にはしていない。考えて解答させるような問題にしている。講義の最後に、manabaのアンケートで、わからなかったところを書かせるようにしてみる。

- ・取り組む問題を易しくして、丁寧に説明している点がよいと思う。やさしい問題でも、物理の問題は奥が深いので、できるだけ深掘するようにしている。

- ・毎回の宿題量のバランスをできるだけ取るようにして対応したい。

5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

- ・講義内容ではなく、オンデマンドの解答の説明などを動画で配信すると効果的かもしれない。

- ・コロナ関連（感染した、濃厚接触者になった、ワクチンの副作用など）でのみ遠隔での受講を認めることにしていた。しかし、ゴールデンウィーク前後では、コロナ関連ではない理由（帰省など）で遠隔で受講したいという学生が数人出てきた。今回は認めたが、遠隔での受講を認めるかどうかの判断が難しい。

教養活用科目、高度共通教育科目

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・これまでと同様に授業前日までには講義資料を manaba へアップロードし、予習を促すよう対応していく。
- ・予習をしにくい授業なので、受講後に課題を提出する形式を継続したい。
- ・これまでであれば授業時間中に取り組んでいたグループワークを見直し、事前に多くの準備作業をするような授業デザインに変更しました。しっかり取り組んできた受講生が多く、またグループワークの成果も高いレベルで出てきたことから、適切な改善になったのではないかと考えています。

2. 受講生が実感する学習成果

- ・大規模教室での授業実施は、かつリモート実施というのは学習効率という意味において困難が多い。リモートの良さを活かしつつ、対面授業を実施したいと構想している。
- ・本授業では、受講生の社会人基礎力の伸長を実現させるべく、授業をデザインしています。様々な工夫をしており、過年度の授業評価でも高評価が返ってきています。自由記述では、協働能力や発言力の向上を回答する受講生がほとんどです。

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・大規模型のリモート授業においてアクティブラーニングを導入することは、諸刃の刃となることがある。このような形態におけるアクティブラーニングについての研究が必要だと考える。
- ・学生がより積極的に自主的な考察や取り組みができるよう、さらに工夫していきたい。
- ・問いに向き合う作業を入れることを検討する。
- ・発言が苦でなくなった、インターンシップへの参加意欲が高まった等の回答の他、授業担当教員への感謝を述べてくれる受講生が多くいます。主体的に学習し、行動する能力は高まっているといえます。

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・昨年度よりも「とても良かった」と評価する学生が増えているものの、やはりリモート授業の限界も見えてきている。対面授業へと移行する中で、リモートと対面とを併用したより学習効果の高い授業構築を目指したい。
- ・専門的な内容の講義もあるため、難しいとの声があったが、参考図書等の紹介などを行い、自己学習に取り組めるような工夫をしていきたい。

5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

- ・大規模教室におけるアクティブラーニングを導入するために、インストラクショナル・デ

ザインについてより緻密な作業が必要だと考えている。

- ・評価をレポート提出で行っており、授業中にも剽窃などについて説明をしているが、レポートの書き方（引用と剽窃の違いへの理解や、剽窃は"やってはいけないこと"という認識を持つこと等も含めて）について、初年次セミナーだけでなく、学年が上がってもきちんと学ぶ機会を増やして欲しい。

- ・出欠の扱いや評価方法はシラバスと manaba で案内しているが今後も周知を徹底したい。

- ・後期から交換留学生の入国が再開するので、これまで培ってきた UWA の学生との遠隔授業をどのように扱うか、課題である。